

CO・OP

京都の生協

2019/April/No. 98
京都府生活協同組合連合会



子どもの貧困や孤立を生まない社会をつくる
——子どもが幸福に暮らせるまちは、だれもが暮らしやすい——

TalkTalk トークとーく

NPO法人こどもソーシャルワークセンター	理事長	ゆき	しげ	ただ	たか
●幸重社会福祉士事務所	代表	幸	重	忠	孝さん
NPO法人山科醍醐こどものひろば	前理事長	かみ	かけ	とし	ひろ
●京都府生活協同組合連合会	会長理事	上	掛	利	博

対談

TalkTalk トークとーく



子どもの貧困や孤立を生まない社会をつくる

——子どもが幸福に暮らせるまちは、だれもが暮らしやすい——

NPO法人こどもソーシャルワークセンター

幸重社会福祉士事務所

NPO法人山科醍醐こどものひろば

京都府生活協同組合連合会

(京都府立大学公共政策学部教授)

理事長 幸重 忠孝 さん
代表 幸重 忠孝 さん
前理事長 上掛 利博 さん

各地に「子ども食堂」が生まれるなど、子どもが「貧困」のなかで暮らしています。

子どもの貧困問題に、社会の耳目が注がれています。日本では7人に1人が、食べ物や住む家が無いという、目に見える「絶対的貧困」ではなく、平均的な文化水準や生活水準以下の「相対的貧困状態」に孤立などの「見えな

新聞奨学生生活体験で学んだ貧困や孤立

上掛 幸重さんには2年前、京都府立大学の大学院で集中講義と講演をお願いしましたが、そのとき私は、世界で最も子どもが幸福な国ノルウェーへ「子どもの貧困」調査に出かけていたので、お会いできませんでした。きょう、お話しする機会が得られて大変うれしく思います。幸重さんが子どもの問題に関わるようになられたきっかけは？

幸重 出身は岡山県で、母が「おやこ劇場・子ども劇場（こどものひろば）」といった地域の子育て支援に取り組む市民団体の役員をされていて、私も地域の人たちに囲まれて育ちました。その大人たちは、命を危険にさらしたり他人を傷つけたりする行為は止めますが、できるだけ介入せず、子ども同士の話し合いを大切に、自由にさまざま

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

子どもの貧困や孤立を生まない社会をつくる
—子どもが幸福に暮らせるまちは、だれもが暮らしやすい— 2

きょうと食の安心・安全フォーラム 7
平成30年度第4回きょうと食の安心・安全
意見交換会 7

農林水産省・近畿農政局と近畿地区生協府県連との
意見交換会開催 7

2019年京都府生協連 新春交歓会開催 8

TOPICS

● エシカル・ラボin京都 10

● こどもの居場所づくりを考える—誰ひとり取り残さない地域づくりとは— 10

● 会員生協相互連絡防災訓練 10

● コープ御所南ビル防災訓練 10

● 日本生協連関西地連
第2回大規模災害対策協議会 10

● 日本生協連関西地連
非常用通信機器（MCA無線）訓練 10

● 京都府生協連と近畿ろうきん京都地区統括本部との懇談会 11

● 「ヒバクシャ署名京都の会」街頭宣伝署名 11

● マスコミ関係者との懇談会 11

● 2018年度
消費者団体訴訟制度シンポジウム開催 11

● 消費税増税・軽減税率制度説明会開催 11

● 京都府（市）食品衛生監視指導計画（案）に
ついての意見 11

● 会員生協トップインタビュー VOL.8
全労済京都推進本部・全京都勤労者共済生協 12

● 京都府生協連 第29回
「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」 14

● おもな行事のお知らせ 14



京都府生活協同組合連合会 会長理事
京都府立大学 公共政策学部教授
上掛利博



NPO法人セモソーシャルワークセンター 理事長
幸重 社会福祉士事務所 代表 表
NPO法人山科産働こどもの心ば 前理事長
幸重忠孝さん

べる大学がなくて、関西の大学を受験しました。でも、受験に失敗して浪人することになり、地元で親の経済的援助を受けることには抵抗があったので、関西の新聞奨学生に応募して、自力で予備校に通うことにしました。まかないの食事付きで、宿舍もあり、予備校の授業料も払えるだろうと思ったからです。

ところが、配属された販売所の実態は、事前に提示されていた条件とは全然違って、とにかくひどいものでした。あまりにもつらくて、4月に同時に入った3人の仲間は全員、5月の連休前に辞めて

しまい、ひとり残った私も「こんな生活、もう耐えられない」と毎日泣いていたのですが、そのとき、ふと思い出したのが「こどものひろば」でした。そこに行けば同世代の仲間に出会えるはずだと。

もちろん、予備校にも同世代の若者が身近にいましたが、彼らが友だちづくりをする放課後は、新聞奨学生にとって夕刊配達のために帰る時間です。4月が終わる頃にはもう予備校の友だちグループができてしまい、その輪の中に入れない私は予備校でひとりぼっちでした。この体験は、私の核心になっ

ていて、子どもたちや若者の苦しみを体感として理解するうえで大きな経験値になっています。貧困問題や孤立化が話題になると、「住み込みでも頑張れるはずだ」とか「自分も中卒で頑張っただけで、家庭を持てた。現代の子どもももっと頑張れるはずだ。甘いのではないか」という声を耳にしますが、私が体験したように、周りに同世代の若者がいても、生活サイクルが違えば関係をうまくつくれず孤立してしまうし、何より子どもは現代の地域で生きているのですから、昔と比較などできないのです。

児童養護施設の職員、大学教員、 そしてスクールソーシャルワーカーに

上掛 新聞奨学生時代の孤立というご自身のつらい体験を経て、大学で福祉を学び、大学院には働きながら通われたとか。

幸重 児童養護施設の職員をしつつ、大学院では福祉専門職のメンタルヘルスについて研究しました。たとえば保育士さんは、もともと子ども

が好きだったはずなのに、仕事になった途端にしんどくなっていくことが多い。そういう姿を見て、職員の気持ちにゆとりがないと子どもにも影響があるのではないかと思っただけです。

上掛 その後に、大学教員の経験もおありですね？
幸重 それは少し複雑な経

緯がありました。学生時代からスクールソーシャルワーカーという仕事に関心があり、大学院で実習したら、実習先の教育委員会が高く評価してくださって、有償で週1回、学校で相談員をしないかというお話をいただきました。

上掛 学校の相談員というのは、スクールソーシャルワーカー

カーのことですか。

幸重 最初はその名称の相談員ではありませんでしたが、10年ほど前に国が事業化したことから今はスクールソーシャルワーカーと名乗っています。原則として社会福祉士や精神保健福祉士の有資格者で、学校の先生や児童相談所などと連携しながら、学校の先生とは違うアプローチの仕方でもの環境を改善できるように支援する仕事です。それは私のめざす仕事につながる第





子どもの意見を ちゃんと聴くことの意味

一步だったのでお受けするこ
とにしたのですが、そうなる
と週4日は空くので、たまた
ま公募されていた大学教員に
応募したら採用されたという
わけです。2つの大学で合計

上掛 「貧困」といえば「自
己責任」が追求されがちな日
本でも、対象が子どもとなる
と本人に自己責任は問えない
ということもあって、201
4年から「子どもの貧困対策
推進法」が施行され、予算が
付くなどしています。

幸重 た
しかにこの
5年ぐらい、
法整備が進
み、社会問
題として関
心を持つ方
も増えて、
生協も他団
体とともに
「子どもの
未来アク
ション」に
参加して、
啓発活動に
取り組まれ
ていますが、
やはりその理解は実態から乖
離しているかなと思います。
それを典型的に表すのが、
「とても大変な状況に置かれ
ている子どもなら救わないと
いけないが、少しぐらいなら
がまんしろ」とか「がんばる
親や子は応援するが、やる気
のない、がんばれない親や子
は応援しなくてもよい」とい
う考え方です。そういう言葉
や考え方は、問題の根っこが
わかっていたらまず出てこな
いはずなのです。

上掛 問題の根っこという
点で、私が研究しているノル
ウェーには、そもそも日本の
ような生活保護中心の制度は
ありません。すべての高齢者
に暮らせる額の年金を保障し
ていますし、障がいのある人
には労働能力に応じた障害年
金が支払われ、ひとり親家庭
には子ども手当などが「倍」支
給されていますので、生活保

8年間、教えました。教育
と研究の仕事が出来たことは、
とてもよい経験になりました。

護制度を必要としていないの
です。生活できる賃金額が保
障されていますので、日本の
ようにシングルマザーの人が
ダブルワークをしても生活保
護基準以下の賃金しか得られ
ないということはありません。
また、憲法のなかに「子ど
もの権利条約」や「女性の権
利条約」が含まれ、(18歳ま
での)子どもの権利について
は、小さい頃から「自分たち
は意思表示ができ、自分たち
の意見を聴いてもらうことが

でき、それを尊重してもらえ
る」ということが教えられて
います。国のトップから地方
行政の担当者、保育園の理事・
園長・職員、親や地域の人び
とも、みんなが「自分たちの
仕事は子どもの権利を守るこ
とだから、第一に子どもの意
見を尊重しなければいけない」

プログラムなしの、 ほっとできる居場所づくり

上掛 幸重さんは、子ども
の貧困には3層の構造がある
と分析されていますね。

幸重 3層の頂点は家庭か
ら離れて児童養護施設で暮ら
す子どもたち、2層目は生活
保護家庭の子どもたち、3層
目は相対的貧困状態にいる子
どもたちです。施設の子ども
たちや生活保護家庭の子ども



たちについては、まだまだ不
十分なが社会資源が着実に
増えています。3層目の、
貧しいにもかかわらず行政に
キャッチされていない家庭に
ついては社会資源不足ですし、
せっかく社会資源ができて、
そこにつながるチャンネルを
見つけられていません。そこ
にどう踏み込むかが大きな課

と理解して、法律やガイドラ
インが整備されていて活用さ
れています。

幸重 だれひとり孤立させ
ない社会に向けて、ちゃんと
手が打たれているのですね。
いじめ対策にせよ、子どもの
貧困対策にせよ、日本では、
法律ができたとはいえ、子ど
も不在の議論が進んでいて、
より孤立化が進み、生きづら
さを抱える子どもたちが増え
ています。いわゆる「専門
家」の大人たちだけで検討し
て、子どもの意見をちゃんと
聴くことができないと、どう
しても実態とズレてくるとい
うのが私の実感です。

題です。

上掛 生活保護家庭に対し
て蔑視したり、バッシングが
横行することも多いので、貧
困状態にあっても受給をため
らう人が少なくありません。
貧困でありながら生活保護な
どの制度につながっていない
家庭への支援が、日本の現状
では不足しているのですね。

幸重 そうです。そういう
子どもたちに何が必要だろう
か、と考えたときに始めたの
が地域での居場所づくり、し

かも学校や学童保育が終わった後の、夜の居場所づくりでした。貧困家庭では夜も親が働くことなど多くありますから、夜の居場所づくりこそ私たちが地域で取り組まねばと思ったのです。

地域の居場所では子どもたちに100%のハッピーは用意できないけれど、ハッピーがゼロになると生きる力や未来への夢が奪われてしまう。

私の経験を振り返っても、たとえ10%でもハッピーがあれば踏みとどまれるから、無理のないかたちで夜の居場所をつくらうと、仲間たちと話し合いました。

上掛 それが午後5時から午後9時までの「トワイライトステイ」ですね。昼間の居場所は？

幸重 「ほっ」とるーむという名前で、午後5時までやっています。夜も昼も、登



録した子どもたちが利用しますが、決まったプログラムはありません。子どもは、したくなければ何もしなくてもいいし、マンガを読もうがスマホをさわろうが自由で、大人

「事業ありき」ではなく、 子どものニーズから出発する

上掛 「eatalk」（イートーク）という取り組みもなさっていますね。

幸重 これは子ども食堂です。トワイライトステイと「ほっ」とるーむは利用登録をした子どもたちが主な対象ですが、「eatalk」はふらっと自由に参加できる、いわば食事付きの居場所です。これも週1回の取り組みです。来ているのは、昼や夜の居場所に来ていて、さらにもう1日来たい子が多いですね。

居場所も、子ども食堂も、もっと回数を増やしたいのですが、行政の支援がないとなかなか難しいのが現状です。

上掛 福祉や教育のように人間に関わる分野には、人もお金もちゃんと配分しないと社会が安定しないし、子ども

は子どものしたいことに合わせます。なぜなら私たちの日常生活がそうだからです。学校や職場のような予定が組まれている居場所です。そこは大切にしています。

の権利も守られません。

それにしても「eatalk」というネーミングは、eat（食

べる）とtalk（おしゃべり）の掛け合わせで、しかも「良いトーク」、とても素敵です。

幸重 ありがとうございませ（笑）。居場所を卒業した後、「たまには話したい」とか「グチを聴いてほしい」と言って、やって来る子もいますね。

なかには、居場所に何年か来て、ようやく就職までたり着いたのに、結局、退職してしまう子もいますが、そういう行きつ戻りつもあって当たり前だと思っています。辞めたにせよ、一度は働いたという実績ができたのだから、ここにふらっと来て、いったんエネルギーを補充して、ま

ただ、夕食と入浴はプログラムに組み込みました。夕食は生活の基本ですし、養育放棄によって身なりを整えられない子も対象として想定していましたので。

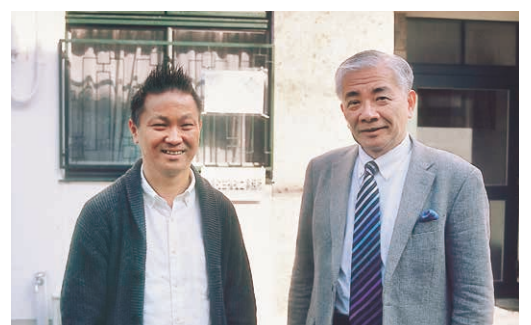
た働こうと思ったら働けばいいのです。

上掛 そういう就労に困難を抱えた子どもへの支援が「ジョブキャッチ」という取り組みですね。

幸重 学校を中退したり不登校になったまま年を重ねると、社会体験が不足して就職できない若者が生まれます。

「ジョブキャッチ」は、そうした若者の一人ひとりに合わせた個別プログラムを展開して、あいさつや初対面の人と関わる力をつけていきます。

どの事業も、まず事業があつて、それを子どもが利用するのではなく、出会った子ども



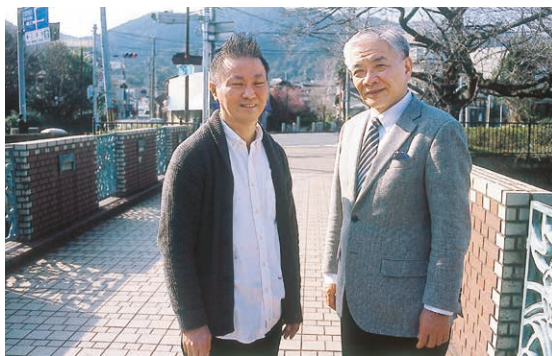
NPO法人こどもソーシャルワークセンターの前で

専門家でないからいそ、 できることがある

上掛 お話をうかがっていると、このセンターの多彩な事業は、大人の意図や都合で

が何に困っているのかを考えて、それを事業にしていきたいと思います。だから、ここに来た若者たちには、「きょうは居場所ではっこりするの？ それとも仕事をしようと思つて来たの？」と聞いて、若者が仕事を選んだら交通費程度の作業賃金を渡します。そのようにして、若者に手をさしのべたり、必要であれば尻をたたいたりもしますね。

はなく、子どものニーズに合わせて組み立てられていることがよくわかります。それは、



幸重さんの「ソーシャルワ

ークは、人間を相手に、いろいろな創意工夫をして、人の力を引き出したり結びつけたりしながら問題解決に向かうという点で、本来はとても創造的で、おもしろい仕事ではないか」という提起と通じ合う気がして、私みたいへん共感を覚えます。

幸重 なぜ自分はこのような事業を発想するのだろうかという振り返ってみると、子ども時代や若者時代に地域の「こどもものひろば」のような活動のなかで、話し合ったり、自分の関心のあることに取り組みをしたりした経験があるからで

はないかと思うんですね。

それから、居場所づくりに取り組み始めたときに話し合ったのは、「さすがに真似できない、先駆的な取り組みは全国にいくつもあるけど、ほかにはそれはやめよう。ほかから救える子どもたちの範疇は限られているのだから、みんながほからの活動をいと思っただけに真似できるパッケージにしよう。それが広がって、社会やまちの構造を変えていくことが大切なのだから」ということでした。

さらにいえば、いわゆる「専門家」と呼ばれるプロが子どもをみることにへの違和感も少し感じています。特に貧困や孤立の問題を抱えている子どもたちは、当たり前前の暮らしをしたいただけだから、「まちの力を借りよう。ボランティアのお兄さん・お姉さん・おっちゃん・おばちゃんの方が大事やねん」と。

ただ、子どもが困って相談してきたら、私は専門家としての力をフルに発揮して、すぐに動きます。日ごろはくだらない話もするけれど、困ったときはすばやく対応してくれる。そこを子どもは見抜い

ているのかなと思います。その意味で、子どもはとても敏感です。

それと、人とのコミュニケーションに難しさを抱えた子どもは、大人の愛情を試すためにわざといたずらをするなど、いわゆる「試し行動」をします。それによってボランティアが疲れてしまうとよくない

問題を生みだす社会そのものを 変えるために

ので、ボランティアの人数は子どもよりも多くしています。大人のほうが多いことは、教育現場では「子どもの自立の機会を奪う」としてタブー視されますが、私たちの居場所では「教育する場」ではないので、温かい大人たちに囲まれてホッとできることを大切にしています。

上掛

地域のいろいろな人が子どもたちと多様に関わるようになって、「子どもに関わる文化」のようなものが豊かな地域になっていくと、高齢者や障害者も含めて「みんなが暮らしやすいまち」になるような気がします。

幸重

子どもたちが生きていく世界は、まさに私たちの住んでいる地域そのものですから、子どもたちの貧困や孤立の問題に関わる人や場所を増やしていくことは、問題そのものを生みだす社会構造やまちを変えていくことにつながるだろうと思います。子どもの問題は、貧困だけ

に限定する必要はなく、何かしらの生きにくさを抱えている子どもや親はたくさんいるはずですから、取り組みは広がらないといけない。だから、われわれは子どもたちを自分たちで囲い込んだりしないで、できるだけオープンでありたいと考えています。

上掛

生活協同組合も、地域で介護事業や生活支援を担うなどしていますが、これからは経済だけでなく、地域で「生活文化の水準を向上させる」ことが求められてくると思います。

文化というのは結局のところ人間が担うのですから、い



プロフィール 幸重忠孝 (ゆきしげ ただたか)

特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 (社会福祉士)

1973年生まれ。岡山出身。児童養護施設職員、大学教員を経て、現在、滋賀県大津市にこどもソーシャルワークセンターを設立。地域のボランティアの力を借りて夜の居場所など様々な子どもの居場所づくりと活動を広げる取り組みを行う。また、滋賀県でスクールソーシャルワーカーや龍谷大学の非常勤講師もやっている。主な著書に『貧困とひとりぼっちのいないまち』『まちの子どもソーシャルワーク』(かもがわ出版)

かに人を育てるのが問われます。その点、このセンターがある地域で、幸重さんたちが可能性を持っている子どもたちと、地域社会が人間的なものに変わっていく確かな希望があるのではないかと、思いました。本日はありがとうございました。

(写真撮影・有田知行)

きょうと食の安心・安全フォーラム

2月7日（木）、京都府庁福利厚生センターで、「知って安心 食べておいしい 京の食」をテーマに開催されました。主催は、きょうと食の安心・安全フォーラム実行委員会（京都府、「二社」京都府食品産業協会、コンシューマーズ京都、京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会、京都府生協連）。行政、事業者、消費者が連携して、府民の食の安心・安全の確保に向けて貢献している事を多くの府民の方に知ってもらうことが目的。今回は12回目の開催となり、府民74人が参加しました。



（一社）京都府食品産業協会・山本隆英会長



京都府生協連・川村幸子理事

（一社）京都府食品産業協会・山本隆英会長の開会あいさつにつづき、京都府農林水産部食の安心・安全推進課・一星暁美副課長が「京都府における食の安心・安全の取組み」について報告しました。「きょうと信頼食品登録制度」登録事業者をはじめとした食品関連業者による安心・安全の取組みの報告をうけ、試食と意見交換がおこなわれました。

参加者からは「業者のみならずの熱心な話を伺えて勉強になりました。このような取組みは定期的に続けてい

きたい」「業者の方の安心安全の取組紹介は分かりやすく、これまで知らなかったことを知ることができました」などの感想がありました。

京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをおこなっていました。

平成30年度第4回きょうと食の安心・安全意見交換会

3月8日（金）、京都府庁福利厚生センター会議室で「府民協働の取組み等について」をテーマに開催されました。

京都府農林水産部食の安心・安全推進課・伊藤利夫理事が開会あいさつ。第5次京都府食の安心・安全行動計画について、食の安心・安全協働サポーターについて、同、ヤングサポーターについて等の報告があり、意見交換しました。

NPO法人京都消費生活有資格者の会、NPO法人使い捨て時代を考える会、NPO法人コンシューマーズ京都、

京都府生協連から8人が参加しました。

農林水産省・近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会開催



近畿農政局・神山修局長

2月27日（水）、コープ御所南ビル4階会議室で開催。今年で21回目になります。

近畿農政局から神山修局長はじめ8の方が、生協から、近畿5府県の生協連、日本生協連関西地連の役員19人が参加。京都府生協連・九鬼隆一事務局長が司会を担当しました。

開会にあたり、生協連を代表して京都府生協連の上掛利博会長理事と、近畿農政局・神山修局長があいさつをのべました。

近畿農政局から「最近の農林水産行政をめぐる情勢について」をテーマに神山修局長と小林博行局長から情報提供があり、意見交換をおこなっていました。

生協から「地産地消・県内農産物の消費拡大とJ・A・全農・滋賀県との連携について」生協コープしが・久保久生地産地消推進担当、「地産地消と食育の取り組みーお米をそだてよう！種まきから収穫までー」市民生協ならコープ・吉田由香副理事長、「地産地消売り場の取り組み」京都生協・廣池孝之地産地消推進担当チーフから報告があり、意見交換をおこないました。



2019年京都市生協連 新春交歓会開催



京都市生協連・
畑忠男副会長理事



日本生協連関西地連・
北村洋事務局長



京都府府民生活部・
大谷学部長



京都市生協連・
上掛利博会長理事



京都市生協連・
坂本真有美理事

行政や議員のみなさんはじめ、103人の方にご出席いただきました。龍谷大学邦楽部の学生のみさんによる祝賀の演奏が、お正月らしさをいっそうひきたてました。高取淳専務理事が会員生協の役員を紹介し、畑忠男副会長理事が閉会のあいさつをのべました。

今年も地元選出の国会議員のみなさまはじめ、府議会議員、市会議員の方がたが多数ご出席くださり、高取淳専務理事からご紹介をさせていただきますました。日本生協連関西地連・北村洋事務局長による乾杯で、会食・懇談に入りました。

1月5日(土)、コープ・イン・京都で京都市生協連2019年新春交歓会を開催しました。坂本真有美理事が司会を担当、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべました。来賓として、京都府府民生活部・大谷学部長からごあいさつをいただきました。



会員生協役員の紹介

祝電・メッセージをいただいた方

(敬称略・順不同)

衆議院議員	自由民主党	繁本護
衆議院議員	自由民主党	安藤裕
衆議院議員	自由民主党	田中英之
衆議院議員	自由民主党	本田太郎
衆議院議員	国民民主党	泉ケンタ
衆議院議員	日本共産党	こくた恵二
衆議院議員	希望の党	井上一徳
参議院議員	自由民主党	二之湯智
参議院議員	日本共産党	井上さとし
参議院議員	日本共産党	倉林明子
府民クラブ京都府議会議員団	団長	酒井常雄

ご出席いただいた京都府議会議員・京都市会議員

(敬称略・順不同)

京都府議会議員	日本共産党	西脇郁子
京都市会議員	日本共産党	赤阪仁
京都市会議員	日本共産党	山根智史
京都市会議員	日本共産党	河合ようこ
京都市会議員	公明党	かわしま優子
京都市会議員	公明党	西山信昌

ご出席いただいた国会議員のみなさん

(順不同)



衆議院議員国民民主党・泉ケンタさん



衆議院議員自由民主党・繁本護さん



衆議院議員日本共産党・こくた恵二さん



衆議院議員国民民主党・山井和則さん



参議院議員日本共産党・倉林明子さん



参議院議員日本共産党・井上さとしさん



龍谷大学邦楽部のみなさんによる祝賀の演奏



なごやかに歓談



今年もよろしく

エシカル・ラボ in 京都



エシカル消費って何？



エシカル商品を買う動機を教えてください

3月9日(土)、京都テルサで開催され、当日は約200人の府民が来場しました。主催は消費者庁・京都府・京都市。

人や社会・環境・地域に配慮した消費行動をすることで、公正で持続可能な社会づくりを進めていこうとする「エシカル消費(倫理的消費)」の考え方や取組みを広く知らせることを目的に開催され、消費者団体や企業、学生サーク

ル等が出展しました。

テルサホール内では、対談「エシカル消費ってなんなんだ?」「DO YOU ETHICAL? 京都からの発信」や、いけばなパフォーマンス、エシカル漫才が披露され来場者にエシカル消費の大切さを伝えました。

京都府生協連では、会員生協である京都生協と生協コープ自然派京都が、それぞれがすすめているエシカルの取組みについて、ブース展示などで紹介しました。

こどもの居場所づくりを考えるー誰ひとり取り残さない地域づくりとはー



ソーサー・子どもセンター・NPO法人こどもソーシャルワークセンター 幸重忠孝理事長

3月22日(金)、コープ・イン・京都で、NPO法人こどもソーシャルワークセンター・幸重忠孝理事長の講演会を開催しました。

地域社会で厳しい環境に置かれている子どもたちの、それぞれの状況やその居場所づくりの取組みなどを学び、生

協が果たせる役割について考えることが目的。

幸重忠孝理事長は、滋賀県を中心に社会福祉士として子どもの居場所づくりに取り組んでいます。講演では、周りから気づいてもらえない、見えにくい相対的貧困家庭の子どもを救う支援として、夜の居場所「トワイライトステイ」と「フリースペース」(少数のしんどい子を支援するターゲット型)、子どもたちが気軽に来られる地域の居場所「子ども食堂」と「寺子屋」(オープン型)など地域連携でおこなってきた取組みが紹介されました。

参加者からは「子どもたちのかかえている問題等、具体的に知ることができました」「何かできる事を探したいと思います」などの感想がありました。



熱心に聞き入る参加者たち

会員生協相互連絡防災訓練

1月17日(木)、午前8時に京都市内を震源とする震度6強の地震発生を想定。家屋の倒壊・道路の寸断・火災発生等も想定し、会員生協との間で「職員の安否確認・被害状況確認・対策本部の立ち上げ等」について非常用通信機器(MCA無線)やFAXを活用した訓練を実施しました。当日は午前9時、京都府生協連事務所内に対策本部を立ち上げ、会員生協からの連絡を受けました。

コープ御所南ビル防災訓練

2月21日(木)、午前8時に1階店舗総菜作業場から火災発生との想定のもと、各テナントに入っている業者の方、店舗職員含めて避難訓練をおこないました。京都府生協連・高取淳専務理事、九鬼隆一事務局長が参加しました。

関西地連 第2回大規模災害対策協議会

2月21日(木)、生協会館新大阪にて開催されました。「雪害・風水害を想定した会員生協事業所での対応状況と今後の課題」をテーマに冒頭、

日本生協連・田口典明BCP・危機管理担当より全国生協BCP検討課題について報告、その後に平成30年7月の豪雨災害の対応状況と課題について、コープ中国四国事業連合・三浦正文専務スタッフ、平成30年2月の大雪時の対応状況と課題について、コープ北陸事業連合総合企画部・森田満氏より報告がありました。後半のグループ討議では、事前アンケートや自生協(連合会)のマニュアルにもとづき意見交換をして、理解を深めました。京都府生協連・九鬼隆一事務局長が参加しました。

関西地連 非常用通信機器(MCA無線)訓練

3月13日(水)、午後11時に通信機器の基本操作ができる人材を増やす②機器の状態やよりよい使用環境を把握する③情報伝達の運用面におけるノウハウならびに課題を把握し、参加生協間で共有することを目的に、日本生協連関西地連、京都府生協連、京都生協の間で訓練を実施しました。各々の機器状態は良好であり、また機器操作と情報のやりとりの面でも特に問題なく訓練を終了しました。

京都府生協連と近畿ろうきん
京都地区統括本部との懇談会

1月30日(水)、近畿ろうきん京都地区本部会議室にて開催されました。開会にあたって近畿ろうきん・京都地区本部の橋元信一本部長からあいさつがあり、同・小松純一事務局長より事業概況の報告がありました。近畿ろうきん地域共生推進室・中須雅治上席専任役から「近畿ろうきんの学習講座」の紹介や地域共生推進の活動報告がありました。

京都府生協連からも現況の報告をおこない、今後の協同・連携に向けて意見交換をおこないました。

生協からは会員生協の京都生協・河野直常務理事、同・酒向美也子機関組織運営系統統括マネジャー、生協生活クラブ京都エルコップ・河崎豊彦専務理事のほか、京都府生協連から、上掛利博会長理事、高取淳専務理事、九鬼隆一事務局長が参加しました。



近畿ろうきん京都地区・橋元信一本部長

「ヒバクシャ署名京都の会」
街頭宣伝署名

1月12日(土)、八坂神社の石段下にて街頭宣伝署名を実施しました。

15人が参加をし、69筆の署名が集まりました。京都府生協連・九鬼隆一事務局長と川端浩子事務局担当が参加しました。



署名にご協力をお願いします

マスコミ関係者との懇談会

3月18日(月)、御所西京都平安ホテルにて京都に本支局をおく新聞・放送編集者との懇談会を開催しました。開会にあたり、京都府生協連・上掛利博会長理事と産経新聞京都総局・山口敦総局長があいさつをのべました。京都府生協連の各会員生協から「2018年の特徴的な活動」について報告しました。京都生協・畑忠男理事長が「京都生協の事業・活動報告等」について、京都大学生協・中島達

弥専務理事が「京都大学での店舗運営」について報告し、意見交換しました。京都府生協連・中島達弥副会長理事長が御礼と閉会のあいさつをのべました。

2018年度消費者団体訴訟
制度シンポジウム開催

2月3日(日)、京都司法書士会館で開催され、40人が参加しました。

消費者被害の事例と対策について広く啓発し、消費者団体訴訟制度と適格消費者団体、特定適格消費者団体の認知をはかることを目的に開催。

京都府主催、京都市後援、企画・運営は適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN)が担当しました。

テーマは「健康食品の落とし穴 健康食品事例から見る消費者団体訴訟制度とは?」。

第1部では野々山宏弁護士



野々山宏弁護士

士(前国民生活センター理事長・KCCN理事長)より震災関連(最新の消費者被害)と健康食品に関する消費者トラブルについて基調報告があり、つづいてKCCNの健康食品に関する差止請求訴訟について、増田朋記弁護士(KCCN事務局)より活動報告、森貞涼介弁護士(適格消費者団体・特定適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西「KCS」検討委員)より健康食品に関する行政処分後の特定適格消費者団体の取組みについて報告がありました。

第2部では、司法書士、消費生活相談員、消費者からみた適格消費者団体の活動についての報告のあと、「クイズで考えよう!泣き寝入りせえへん方法」と題して、参加型クイズをおこないました。

「クイズ形式でもしるく、楽しく学べた」「たくさんの差止請求訴訟を提起し、事例を蓄積してほしい」「悪質業者に対して、にらみを利かせる『お目付け役』となってほしい」「多くの消費者に知ってもらうことが重要だと思う」などの感想が寄せられました。

京都府生協連はKCCNに加入し、高取淳専務理事が副理事長を担っています。

消費税増税・軽減税率制度説明会開催

第1回(2018年12月11日「火」と、第2回(2019年3月12日「火」)を、それぞれ理事会のあとに開催しました。

大阪国税局課税第二部調査第二部門・鴨田摂子統括官から、第1回はおもな概要について説明・解説がありました。第2回説明会は、事例を紹介しながら参加者との質疑応答がありました。



大阪国税局・鴨田摂子統括官

京都府(市)食品衛生監視指導
計画(案)についての意見

2月26日(火)、京都府生協連は、「平成31年度食品衛生監視指導計画(案)」についての意見を京都府と京都市に提出しました。

意見書は、京都府生協連ホームページ「資料集・政策提言」欄に記載しています。

全労済京都推進本部・全京都勤労者共済生協

岸本満理事長と山本克彦専務に聞く

（聞き手：京都府生協連合会専務理事・高取淳）

イメージキャラクターのピット君でおなじみ、全労済京都推進本部・全京都勤労者共済生活協同組合は共済商品を取り扱う「保障の生協」です。2017年には60周年を迎えられました。

今回は全京都勤労者共済生活協同組合に岸本満理事長をおたずねしました。山本克彦専務理事にも同席いただきました。

高取…全京都勤労者共済生協の理事長に就任されたのはいつでしょうか？

岸本…1年半前です。

高取…理事長になられたきっかけや、これまでの全労済とのかかわりなどお聞かせください。

岸本…労働組合の役員になったのがきっかけで、全労済にかかわりました。もともと自動車会社のエンジニアで、エンジンの開発をしていました。35歳の時に労働組合にはいりました。そこで賃金財政担当を受け持ち、その時に初めて全労済という共済組織があることを知りました。それまで自分自身が入っていた保険の

見直しをしてもらい、全労済の良さを知りました。

高取…長く全労済とお付き合いをされているのですか？

岸本…21年になります。縁を感じてやらせていただいています。

全労済とは？

高取…全労済についてお聞かせください。

山本…1954年に、大阪で第1号として設立されたのが始まりです。働く人たちのための「たすけあい」の制度として共済生協がつけられました。創立当初は火災共済のみ

を取扱っていて、その後、各県単位で設立されてきました。京都では1957年に設立しました。そして1976年には全国統合されました。

高取…京都推進本部についてお聞かせください。

山本…京都推進本部は、北部、中央、南部の3つの地区に分かれています。拠点としては、北部（西舞鶴）、ここ中央（中央区）と南部（伏見区）、にあります。店舗は4つ。拠点のところ、それぞれ店舗があり、それ以外に四条烏丸にショップ（店頭相談窓口）があります。

高取…「生協・法人推進課」をお持ちですが。

山本…2008年に生協法が変わり、全労済も初めて代理店を持つても良いことになり、3つの代理店が持てるようになりました。「生協」と「ろうきん」と「自動車分解整備業者」、いわゆる整備工場です。ただし生

協・法人推進課ができたのもっと後です。

高取…生協でいえば、おもに地域生協による共済推進を支援されているのですか？

山本…そうです。ご承知の通り地域生協も独自の共済をされておりおられるので、それとは別に、住まいる共済（コープ火災共済・自然災害共済）を、全労済元受で取り扱ってもらっています。

全労済の社会貢献活動

高取…社会貢献活動にも積極的に取り組まれています。特徴的な取り組みをお聞かせください。

山本…文化事業として京都独自でしている取組みとして親子劇場があります。

基本的には組合員さん対象の取組みです。大変人気があり、今年度開催分も早く

に定員に達しました。

全国的には、地域貢献助成事業に取り組んでいます。予算規模は全国で2千万円、1団体上限額は30万円です。

地域貢献助成事業は「人と人とがささえあい、安心して暮らせる未来へ」をテーマに、地域の人々がたすけあつて自然災害に備え、いのちを守る活動、環境を守る活動および子どもの健やかな育ちを支える活動を支援しています。京都では昨年8団体が応募され、内6団体に助成しました。もっと広く告知をしてさらに広がればいいと思っています。

また、環境のことを考えた「エコ住宅専用火災共済」という共済商品があります。オール電化など全労済指定のエ





岸本満理事長（右）と山本克彦専務理事

多発する自然災害に備えて

コ設備が設置されている住宅にお住まいの方が加入されると、掛金が割引になります。そして掛金の一部が環境活動団体に寄付されるという共済商品です。

また、東日本大震災を風化させないようにと、読み聞かせ活動にも取り組んでいます。

高取…ここ数年、自然災害が多発しています。組合員のお

役に立てるといって一方で、対応や備えが大切だと思われま

す。この課題についてはどのようにお考えでしょうか？

岸本…昨年は6月に大阪北部地震があり、その後、7月には集中豪雨が京都府北部であり（申請件数149件）、その後、東から西へ逆走した異例の台風12号がきました（317件）。その後も京都府で23万人に避難勧告が出された台風20号が、姫路から再上陸して直撃しました（248件）。そして渡月橋の欄干が倒壊したほどの強烈な台風21号が直撃し、その時点で申請件数は9千件を超え、さらに台風24号、25号により、現時点で1万1,537件の申請をいただいています。全国規模では15万6,493件です。東日本大震災が20万件、熊本地震は2万件

と比べると件数的にはかなりの被害だったことが分かりま

す。

対応として、台風20号までは自分たち（京都）で頑張ろうとすすめていたのですが、台風21号では全国動員をかけるを得なくなりました。ところが、今度は台風24号、25号により関東で大きな被害が出て、さらに北海道でも地震があり人員の支援がもらえなくなりました。最終的には本部一括での対応となり、逆にこちらから東京へ支援に行くことになりました。

そういったことから組合員さんにはたいへん申し訳なかつたと思っています。どういうあり方が良かったのかをしっかりと総括しないといけないと感じています。

それほど昨年は自然災害が多く発生しました。

山本…初動対応が遅れると悪循環になるというのが反省点です。今回で言う台風21号の翌日、北海道胆振東部地震が起きました。

全労済では、事故の連絡は北海道・札幌と九州・福岡で受けているのです。地震により、札幌のコールセンターが

停電して電話が受けられなくなりま

した。電話がつながらなくなりま

したので、全労済店舗の窓口にも組合員さんが来られる事態になりました。

全労済では災害対応の内部規定があります。1号は全国動員レベル、2号は関西エリアでの動員レベル、3号は京都で受けるレベル。昨年の災害はほとんどが1号レベルでも初めでした。

当初は非常災害と言っていたのですが、その後、大規模災害と名称も変わりました。

生まれかわる全労済

高取…これからの全労済の課題や計画についてお聞かせください。

岸本…6月に新しく「こくみん共済coop」という愛称がで

きます。愛称の定着が当面の課題になります。全労済は「共済事業をしている」ということをもっとアピールできるようにしたいと考えています。

また2018年度活動計画の Sloanガンである、「リスクを周知し、無保障者の撲滅と

進んでいきます。

山本…6月にはピット君にも新しいファミリィが加わりま

す。ご期待ください。

高取…本日はお忙しいところ、ありがとうございます。



全労済公式キャラクターピットくん

全京都勤労者共済生活協同組合

代表者/理事長：岸本 満
専務理事：山本 克彦

所在地/京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都7F
TEL.075-812-7800

組合員数/26万7,725人(2017年度末)

設立年月日/1957年10月5日

<http://www.zenrosai.coop/zenkoku/kyoto/kyoto.php>

京都府生協連 第29回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

シニア世代と生協

2月5日(火)、コープ御所南ビル会議室で開催し、役員22人が参加しました。

前回開催のKSK(第28回)では、これからの時代を担う若い世代の声から、今後の生協活動を考える内容となりました。今回(第29回)のKSKでは、組合員の年代構成が拡大を続ける「シニア世代」に焦点をあて、生協のシニア世代に向けた事業や活動、今後の課題等について交流し考えあいました。



京都府生協連・上掛利博会長理事

上掛利博会長理事が開会のあいさつとコーディネイターをつとめました。

会員生協からの活動報告では、生協生活クラブ京都エル・コープ・上総紫香子副理事長より、「暮らし続けたい地域社会を描く」組合員向け連続講座の報告がありました。続いて、京都生協くらしサポート事業系統・大川洋統括マネジャーより「京都生協福祉



生協生活クラブ京都エル・コープ・上総紫香子副理事長

事業について」の報告があり、京都高齢者生協くらしコープ・石澤春彦専務理事より「組合員と地域のネットワークで問題に取り組み本場の『地域包括ケア』を求めて」の報告がありました。

ひきつづき、京都府生協連・上掛利博会長理事より、会員生協からの活動報告を受けて「高齢化社会と生協の福祉」をテーマに、講演がありました。現在の福祉行政のあり方、人間が生き生きと暮らせる社会づくりに向けての提起などのお話がありました。参加者からは「地域づくりはひとつの組織だけでなく多



京都生協くらしサポート事業系統・大川洋統括マネジャー

数の力を合わせてこそ実現できる」「各生協の活動紹介を聞き、新しい発見があった」「日頃の事業と違った視点で、福祉、福祉事業を考える事ができました。学ばせていただいた事を今後の福祉活動に活かしていきたい」「これから地域社会のつながり、『町』が変化する中、これからの町づくりの中での老人福祉はどのようなのか。会員生協や講演の話で、地域での男性の参加の必要性ややり方等、考える機会になりました」「今す



京都高齢者生協くらしコープ・石澤春彦専務理事

んでいる問題を、生のまま報告し、また学ぶことができました。上掛会長の先駆的な業績に大きな刺激を受けました」「これからは連携がキーワードになってくると感じました」「組合員のための生協ではなく、地域住民と共に環境を創りあげる生協に成長したいものです」など多くの感想が出されました。

おもな行事のお知らせ

第30回京都の生協活動を豊かに発展させる協議会(KSK)

日時：4月23日(火)午後1時30分

午後4時30分(予定)

会場：コープ御所南ビル4階会議室

テーマ：「日本生協連全国組合員意識調査から見えること」(仮題)

京都府生協連 第66回通常総会

日時：6月11日(火)午後1時30分

午後4時30分(予定)

会場：京都府立総合社会福祉会館八

ートピア京都3階大会議室

ピースブレッド(2019年度
ピースアクション京都)

日時：6月21日(金)

会場：祇園石段下から京都市役所

で

2019年国際協同組合デー
第30回京都集会

日時：7月3日(水)午後1時00分

午後3時20分(予定)

会場：キャンパスプラザ京都

テーマ：未定

第50回京都消費者大会

日時：5月18日(土)

会場：ウイングス京都

被爆者のお話と原爆展

日時：5月17日(金)～19日(日)

会場：セスト御池寺町広場

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 TEL075(251)1501
URL: http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail: kyotofu-seikyoren@ncc.seikyoren.jp
〒604-0087 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町2008番地 コープ御所南ビル4階